

研究室所属の出羽末輝さんが、第3回学校教育（教育学）教室卒業研究グランプリ受賞者として、表彰されました。

おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

平成20年3月19日

篠原 文陽児

卒業論文標題

公立小学校における高機能自閉症児への教育的支援の現状と実践に関する基礎的研究

受賞理由

1. 2007年度から特別支援教育制度が開始されていること、と、
 2. 文部科学省の調査によれば、通常の学級に在籍する軽度発達障害児は全体の約6%、言い換えれば、1学級に約2、3人の軽度発達障害児が存在すると推計され、現在各小学校では特別な配慮を必要とする児童への支援が模索されていること、
- の2つに、持ち前の興味・関心の豊かさと好奇心が刺激され、かつ、何よりも、教育実習で強い影響を受け信頼感を相互に持ち続けた現職教員等と家庭との強い連携に気を配りながら、これらを真摯な態度で、ご自身の目と身体で模索し具体的に確認しつつ、纏め上げている。

つまり、本研究は、高機能自閉症の特性・児童への理解を深め、よりよい支援を考えていくことによって、これからの軽度発達障害児への教育的支援の理論と実践の統合に関する力作である。

理論的背景は、丹念に文献をもとに考察され、加えて、「特別な場で児童の実態に応じた支援を行う場」である通級指導教室の教育実践の調査、通級指導教室に在籍する二人の高機能自閉症児の事例研究が行われている。

研究の成果として、今後よりよい支援を行うためには、①教員の気づきと見立て、②「安心できる居場所」作りの両者を行う必要があることを明らかにしている。そして、教員に求められるのはこれまでと同様、児童理解に努めること、児童との信頼関係の構築であり、加えて、これからは、児童の「気になる」行動・状況から、どの部分に弱さや困難を抱えているのか、身体機能への不安を持っているのではないのか、など児童の特性を具体的に見立て、そこから有効な支援を考え、実践していくことが求められると、確信をもって提言している。

もとより、「卒業論文」を仕立て上げる意義は、

- 1) 一般的意義 としては、

学術的な先行研究、先行事例等を精査して得られた根拠ある科学的な知見等を基礎に、理論研究、調査研究等を計画的に実施し、論理的、分析的に、自分の創造した知見をまとめて、

伝達すること、

2) 教育的意義 としては、

論文の書き方の学習

と、筆者は考えている。

こうした点からも、出羽未輝さんの平成19年度卒業論文「公立小学校における高機能自閉症児への教育的支援の現状と実践に関する基礎的研究」は、表題及びそのお名前のように、今後、いっそう輝く基礎が明快に記述されている。心から、お祝い申し上げます。

以上